

第三者評価結果

A-1 保育内容

A-1-(1) 保育課程の編成

第三者評価結果

【A1】	A-1-(1)-①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している	b
------	-----------	--	---

・全体的な計画は保育所の理念、方針や目標に基づき本部で編成されており、園では食育や運動、活動、英語、交流などについて取り入れ作成をしている。全体的な計画は、施設長が中心となり作成しており、会議において職員全員が確認できるようにしている。年度末に振り返りを行い次年度の作成につなげているが、来年度は職員も一緒に作成に取り組むことを検討している。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

【A2】	A-1-(2)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	a
------	-----------	---	---

・温度計、湿度計は各部屋に設置しエアコン、加湿空気清浄器、窓開けによる換気も行い適切な状態を保持している。
 ・布団はリースにより2週間に1回、乾燥 殺菌し新し物に交換している。また嘔吐、失禁や出血の場合は新しい物が使用できるようにしている。
 ・木製の家具を使用し、乳児は特に目や手に優しい柔らかい素材の物を使い、子どもの年齢にあった遊具を自由に取り出して遊べるようにしており、コーナーを作って遊びに集中したり、ゆっくり絵本を読んだりできるように工夫している。
 ・手洗い場、トイレ、水回りは毎日 昼間と夕方2回清掃し見回り安全な環境を整え、手洗い場はペーパータオルを設置し、清潔に手洗い、手拭きができるようにしている。朝と帰り際には毎日安全チェック表による確認を行い、清掃は職員が担当し玩具の消毒は乳児クラス、幼児クラスともに毎日行い衛生管理に努めている。

【A3】	A-1-(2)-②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている	a
------	-----------	----------------------------------	---

・一人ひとりに個性があることを前提とし、室内遊び・製作・外遊びなど、個々に合わせて十分に楽しめるようにしており、コーナーづくり、パーティションの使用などにより環境づくりに工夫をし子どもが集中できるようにしている。
 ・子どもが自分たちで考え、行動できるような言葉かけを行っている。また、声の大きさに配慮し子どもが落ち着いて過ごせるようにしている。命令や指示語を使わないように注意しており、自分から気持ちを伝えられない時は、代弁し寄り添っていく様にしている。
 ・個人記録とは別に発達記録をつけていくことで、個々の発達について振り返りができるようになっており、職員全員がみられるようになっている。

【A4】	A-1-(2)-③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている	a
------	-----------	--	---

・子どもの発達に応じて基本的な生活習慣を伝え身につくように援助している。自分でやりたい気持ちができたら、着脱の方法を知らせながら、たたむ、ロッカーにしまう等その都度丁寧に伝え楽しんでできるようにしている。保育室はオープンスペースであることから、乳児クラスの子どもたちも、幼児が身支度などを自分でやっている様子を見て興味を持ち、真似をしている姿も見られている。乳児からの積み重ねによって幼児クラスの子どもたちは自分で朝や帰りの身支度をしたり、活動の準備や片付けもが出来るようになっていく。言葉をかけすぎず、自分で出来たという喜びが感じられるように見守る姿勢を大切にしている。
 ・季節、気温、年齢や好みなど、活動のバランスを考え、休息や水分補給を行うようにしている。お昼寝はそ年齢ごとに時間を設定しているが、保護者の要望によって少し早めに起きられるようにするなどの対応も行っている。

【A5】	A-1-(2)-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している	a
------	-----------	--	---

・玩具を自分たちで自由に選んで遊べるようなコーナーを設置し、好きな遊びを楽しめるように工夫している。制作活動や楽器遊びなどで自由に表現を楽しめるようにしているほか、幼児クラスでは外部講師による体操教室、英語リトミックをそれぞれ月2回実施し、子どもが保育士以外と関わり様々な体験ができる機会を設けている。
 ・午前中は戸外遊びの時間を多く取り入れており、ねらいに合わせて公園などに出かけ、季節の花や虫に触れることで四季の移り変わりに気づくことができるように援助している。散歩では交通ルールを学ぶ機会でもあるため、出発前には注意を伝え安全に出かけられるように援助している。また、挨拶の大切さも伝えており近隣の方とも挨拶を交わすようにしている。

		第三者評価結果
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児一人ひとりの発達を担任が把握し、離乳食の進め方や活動内容を個々に合わせ保育を行っており、個々の発達状況はミーティング等で他クラスの職員にも伝え、連携できるように取り組んでいる。 ・発達記録をつけることで、個々の発達の状況を目に見える形で共有することができており、個々により異なる発達に応じて、手作り玩具も準備し指先を使う玩具や、伝え遊びが楽しめるような環境を作っている。 ・子どもたちが「きれい」「気持ちがいい」「おいしい」など感じたことを言葉で代弁して伝えスキップも大切にしている。 ・保護者とは連絡帳と送迎時の会話、ホワイトボードによって子どもの様子を伝えあい共有できるようにしており、保護者との関係作りに力を入れ取り組んでいる。 		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発達に応じて焦らせる様な声掛けをせず、保育士がゆったりした気持ちで待つ様になっている。時間差保育にも取り組みを始めており、個々のペースに合わせながら、食事、身支度など、少しずつ無理のないように進めている。友だちとの関りも多くなることから、自分の思いを伝えられない時や言葉にならない時は、相手にも思いがある事など分かりやすく伝え、気持ちを汲み取りながら代弁するなどの援助をしている。 ・乳児クラスの子どもたちは、外遊びや合同保育時間などで他のクラスの子ども達と関わる時間を作るようにしている。栄養士は給食時間や食育活動で子どもたち関わるようにしている。 ・連絡帳、口頭やホワイトボードにおいても保育園での活動や子どもの様子を伝えるようにしている。トイレトレーニングの取り組みについては子どもの発達に合わせて家庭と連携しながら個別に進めている。 		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、興味関心を持った遊びを自由に選択し遊びこめる環境（コーナー）や玩具の用意をしている。 ・保育者や友だちと一緒にゲーム遊びや集団遊びを取り組む中で、子どもたちで遊びを進めていけるように導入を行い、子どもたち一人ひとりの得意な遊びなどでは、友だち同士で教えあったり、一緒に行ったりする姿を見守りながら遊びが発展していけるように関わっている。 ・保護者には毎日ホワイトボードで活動の様子を知らせていき、写真などでも様子を伝えている。 ・今年度の運動会は、園内で幼児クラスのみ人数制限、手洗い消毒などの感染症拡大防止対策に努めながら実施に繋げることができている。クラスごとに時間を決めて保護者1名室内、1名は外からの見学をお願いした。行事に向けては子どもの意見を取り入れることを大切にしており、年長児はクラス旗づくり、ダンス、お遊戯会のセリフについてなど子ども同士でも話し合いの機会持ち、意見を多く取り入れ子どもが興味関心をもって準備に取り組むことが出来るようにしている。 		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前はスロープにし段差のない部屋にしている。 ・配慮が必要な子どもの保育にあたっては、個別の「支援児童指導計画」を立て、園生活において特別に分けることはなく、個性のひとつとして認め合いながら一緒に遊びを楽しめるように配慮している。一人ひとりに合わせた対応について職員間で話し合い、子どもが落ち着けるスペースづくりなどにも配慮している。 ・日頃の登降園時や個人面談等で様子を伝えたり、家庭での様子を聞いて共有に努めており、会社の専門機関や年に2回の内科検診等で相談し情報やアドバイスを得られるようにしている。 ・専門的な知識を学ぶ機会として外部研修への参加や、キャリアアップ研修、個人的に勉強している内容についても共有するようにしている。 		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・月案、週案の中に連続性のある計画をおり込み、朝の会で1日の流れを話し活動できるようにしている。 ・コーナーによって、ゴザや畳様式の所でゆったりと本を読んだり、落ち着いてままごと遊びが出来るように工夫し、保育時間の長い子どもが穏やかに過ごせるように配慮している。合同保育時間では異年齢の子ども達と一緒に過ごすことになるため、室内を片付けて安全点検を行い、好きな場所好きな遊びに取り組めるようにしている。また、希望により捕食（お茶、おやつ）を提供しており、当日での申し込みも可能としている。 ・登降園連絡帳に朝の伝達から、日中の子どもの様子、夕方の伝達事項など誰でも分かるように記入し伝えている。昼ミーティングにおいても子どもの様子を共有し、昼礼日誌でも確認できるようにしている。 		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・今年はコロナ禍で交流が行えていないが、例年は近隣の保育園との交流や小学校との交流を通して同じ就学先の友だちを見つけたり、小学校での遊びなどを体験し、期待や見通しを持ち過ごしていた。 ・身の回りのことを自分で行うことや、早寝早起きなどについて保育の中で子どもに伝えるとともに、クラスだよりやホワイトボードで保護者に伝え共有できるようにしている。就学後を見通した話を面談等で共有し保護者の不安や疑問に答えるように取り組んでいる。 ・保育所児童保育要録は担任だけでなく施設長、主任や、過去担任を持っていた保育士など、いろいろな視点から園児の姿を記入していけるようにしている。 		

A-1-(3) 健康管理		第三者評価結果
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> ・保健マニュアルに基づき子どもの心身の健康状態の把握に努めている。登園時の検温、玄関で顔認証の実施により体温が高い場合は実測し確認に努めており、園内においては手洗い、ソーシャルディスタンス、アルコール消毒（食事前）などの感染症拡大防止対策に取り組んでいる。 ・子どもが保育中に怪我をした場合はミーティング等で職員に共有している。 ・健康記録を使い、個々の発達や病歴、予防接種などを把握しており、必要に応じて未接種の方に声を掛けたり、促したりしている。 ・SIDSや感染症などについて入園時に重要事項説明において保護者に伝えており、園内においては睡眠チェック表を使用し、顔色・呼吸・脈等を確認し、午睡中の連絡帳記入を最小限にすることでSIDSなどの睡眠時の事故防止を強化している。また、SIDSポスターを掲示し注意を促している。 ・クラスだよりや園だよりにて感染症のおしらせや時期に応じた保健に関するお知らせを配布し、感染症が発生した場合には園内に掲示し情報を伝えるようにしている。 		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断、歯科検診は年2回行い、その日のうちに紙面や口頭にて保護者に結果を通知している。 ・検診等で指摘された項目があった園児に関しては、担任がその後も経過を把握できるようにしている。園医との連携は取れており、電話で質問や相談なども可能であり、歯科は担当先生が幼児向けの歯磨き指導を行うなど協力体制が築かれている。 		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回全職員でアレルギー疾患等の社内研修を行い、レポートを作成し知識を深めており、園内では動画研修を行い、知識や情報を得て互いに話し合い確認し合っている。また年に1回マニュアルを見直している。 ・給食の際にはトレイ、食器の色を別にし名前カードをつけ区別できるようにしており、調理職員や他の職員で声を出し確認し合ってから先に配膳している。乳児クラスでは席を離して保育士がつき添い、安全に食事ができるように取り組んでいる。 ・アレルギー疾患だけでなく、慢性疾患等は生活管理指導表を医師に記入してもらい保護者と面談を行っている。 ・緊急時個別対応票を作成し対応できるようになっている。 ・アレルギー児には個別に毎月のメニュー表を配布し、栄養士と施設長、担任が保護者と面談を行い確認をお願いしている。 		

A-1-(4) 食事		第三者評価結果
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・個人差があるため、一人ひとりの食べる量や苦手な食材を把握しており、食事を楽しめるように苦手な物を強要せず、量を減らしたり、少しでも食べてみる中で、食べられた達成感や喜びを味わえるようにしている。 ・食育活動として、旬の食材やその日の食事に出てくる食材や調味料などを写真や絵本で知る場で設けている。また、栽培活動や三色栄養群について伝えたり、食具の持ち方など食事のマナー指導を行っている。年度前半は中止していたクッキング活動も後半は自分で調理したものを自分で食べることに内容を変更し、ケーキのデコレーション、ゼリーづくりなど月1回の実施に繋げることが出来ており、自分で作ったものを食べる喜びを感じたり、友達や保育者と一緒に食べる楽しさを味わえるように援助している。 ・食事の好き嫌いについては、量を少なくして完食できるようにするなど個別に対応している。給食だより、サンプルは写真を連絡用アプリ（コドモン）で配信し今日のメニューは掲示して伝えている。 		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・本社作成の献立を使用し二週サイクルでの提供を行っており、各クラス喫食報告をつけたり、残食を記録する中で献立の改善に役立っている。子どもたちの食の進みや、味付け、サイズ等を調理職員と共有し二週目に活かせるようにしている。毎月の献立の中に郷土料理を取り入れ、いろいろな国や地域の料理が食べられる機会を設けているほか、ひな祭りや七夕など行事食を取り入れ、盛り付けなど子ども達が見た目にも楽しめる工夫をしている。 ・栄養士が給食時間にクラスを回る機会もあり、子どもの喫食状況を確認しながら三角食べについて伝えたり、食具の持ち方などマナーについても伝えるようにしている。 		

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

第三者評価結果

【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている

a

・連絡帳だけでなく、各クラスのボードに一日の様子や連絡事項を書き保護者にいつでも見てもらえるようにしている。保護者会を年に2回、保育参加は1回行い基本方針、保育の理念に基づき保育を行っていることの理解を得られるように取り組んでいる。

・保護者会だけでなく登降園時にいつでも保護者の話を聞けるように努め、ともに子どもの事を考え支援できるようにしており、個人面談では家庭や園での様子を共有し、対応方法などを互いに相談していくようにしている。また、保護者の子育ての悩みを聞いたり、アドバイスをしたりといった保護者支援も大切にしている。

・今年度は保護者会が中止となり前半は個人面談を実施し必要な連絡ができるように努めている。年度後半ではクラスだよりと共に一年の振り返りと次年度への引継ぎをお知らせする予定である。

A-2-(2) 保護者等の支援

第三者評価結果

【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている

a

・連絡帳やシール帳を利用し保護者からの相談に応じて必要なアドバイスを行うようにしており、相談を受けた事に対してその後の様子を連絡帳や登降園時に聞き、問題が解決出来るよう努めている。相談内容は個人面談ファイル、ちいさなことは日誌に記録、苦情は別ファイルに残している。

・登降園時に園での子どもの様子や家庭での様子を保護者と共有していくなかで信頼関係を育み、相談しやすい関係づくりに取り組んでおり、保護者からの相談や意見に対し、吟味が必要な場合は、その場しのぎの対応でなく、園内で話し合いその結果を迅速に保護者にフィードバックできるように取り組んでいる。

・相談を受けた保育士が答えに困る事や、対応に困る場合は主任、又は施設長が助言をし、保護者の納得が得られない場合は、施設長が同席するなど適宜対応方法を変えている。

【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている

a

・子どもたちの着替えやおむつ替え時には洋服の下の違和感がないか視診に努め、子どもたちの生活の中での違和感や発言の違和感などを見逃さないように気になったことは保育者同士で意見を聞くなど、園全体で子どもを守る意識をもって過ごしている。

・虐待の疑いフローチャートや虐待対応マニュアルを整備しており、虐待の研修やマニュアルを通して理解や知識を深めるようにしている。

・虐待ほどではないが違和感が生じる際には書面に残すことで当時の様子やその後の経過がみられるようにしている。保護者とのコミュニケーションをとっていく中で、保護者の疲れや体調、精神的な悩みに寄り添い、気持ちを聞けるように日ごろから信頼関係を築いている。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている

a

・日誌では日々の保育の振り返りを行い、週案、月案においては課題について話し合い、翌週、翌月の保育につなげられるように取り組んでいる。

・年度初めには保育士一人ひとりが年間目標を決め、目標に向けて研修や実績を重ね保育の向上に努めている。

・年度末には個々の自己評価を行った後に乳児クラス、幼児クラスそれぞれに話し合いの機会を設け、施設長と主任が内容をまとめて本社に提出する流れとなっている。自己評価の結果は事業所ホームページで公開している。